

お空の八咫鳥の力が消失し、地下焼却炉が暴走した異変世界。地下の妖怪たちは地上に上がることが出来ず、地上の人間や妖怪に憑依することで実体を形成している。

空は八咫鳥の力を失ったため、さとりにも入れられる、見捨てられると思いい、力を取り戻すため家を出している。

地霊殿のメンバーは、そんな彼女を捜すため、レイムたちに接触を図った。

『超地霊殿ヒギニング』

サナエに取り憑いたウツホは、「八咫鳥様がいなくなったのは、あなたの所為か！ あくまぁー」と叫び、いきなり襲いかかる。

だが、八咫鳥なしのウツホは弱く、あつと言いつ間に倒されてしまう。

ボロボロにされ涙ぐむウツホ。「バカアアア！」と捨て台詞を残し飛んでいく。「逃げられませぬよー」「逃がさなむよー」アキユウの言葉にそつ返すと、レイムは【文】に変身。追いつき引つ掴み叩き伏せる。

引きずるように光琳堂に連れ帰り、事情を聞へ。(上記の状況)

八咫鳥がいなくなった原因はレイムではない。それを聞いたお空は、サナエの体を借りたまま、力を取り戻すために飛び出していった。

八咫鳥の力を取り戻す。それがこの世界でするべき事だと考えたレイムは、まずは小命地サトリを探すため、当てもなく歩き始める。目的もなくて大丈夫なのか、と尋ねるアキユウだが、放つても置いて也不必ず異変に繋がるとレイムは確信していた。根拠のない自信に呆れ、小言を言おうとした瞬間、アキユウは突然体の自由を奪われる。

レイムが振り向くと、アキユウがいた場所には、猫耳の少女が立っていた。(お隣)

「お姉さんが噂の悪魔かい？」
呆然とするレイムの前で一回転すると、次は姿が一角の鬼(勇儀)に。

「もっといかついのを想像してただけとねえ」と続ける。そして今度は帽子を被った少女(こころ)に変じると「とりあえず、戦ってみれば分かるよねー」「そつ言って弾幕を飛ばしてきました。

レイムは変身し反撃を試みるが、こいしの『無意識を操る程度の能力』によって相手の位置を特定できない。最初はアキユウの体を心配して防戦一方だったレイムだが、堪えきれず「アキユウ、我慢しなさいよー」「そつ言って、【天子】のカードで変身。

「捉えられないってなら、まとめてっ飛ばすー！」

緋想剣を地面に叩きつけ、周囲の地面を隆起させた。

堪らずこいしは勇儀と交代。要石や隆起する地面を叩き潰し、力押しで攻撃する勇儀の猛攻に、レイムも「鬼には鬼、じゃあ捻りがないわよね」「そつ言って【ミリア・メイリン】に変身し対抗する。

一方当てもなく飛び回るお空の元に、魔理沙が現れる。魔理沙が言うには、お空が「FS」を使えば、ヤタガラスを使うことが出来る。「だから、ヤタガラスをくれー！」だそつだ。

だがウツホは、そつ言つ彼女の言葉を突っぱねる。

ならば力尽く。魔理沙は変身すると、

「今のお前には、こいつなんかピッタリだろ」と言つてチルノを召還した。

視点は再びレイム達に。拮抗する戦いに、レイムは更に【小町】に変身。鎌のリーチと距離を操る戦う。

「あたいに任せてよ、姉さん！」「すまないね、頼むよお隣」そつ言つて勇儀はお隣にチェンジ。怨霊を使う彼女に、レイムは対抗する。

チルノに加えレティを召還し、お空を追い立てる魔理沙。

お隣相手にLASを発動し、最後の一撃を加えようとするレイム。

しかしその時、お隣を止める声があった。それは彼女の主にして、地霊殿の主、サトリであった。

【八咫鳥様のフュージョン信仰】

場面は魔理沙 vs ウツホから。召喚した二人を戻し、魔理沙はLAS(マスタースパーク)を発動。ウツホを魔砲の一撃で吹っ飛ばす。

黒こげのウツホに「八咫鳥の無いお前なんて、只の地獄鳥だ。諦めて私の力になるんだな」と降参するよう促す。すると、負け続けたせいか、癪癪(かんしゃく)をお越し泣き始めてしまった。

その様を見て銃をおろすと、「何なんだ一体……」と、魔理

沙はため息をしく。

(OP)

地霊殿に呼ばれ地底に降りたレイムは、そこでヤマメとキヌメに治療される。先程戦った三人組を発見した。一触即発の雰囲気になるが、ヤマメに「大人しくしないと全員ペストに感染させるよー」と怒られ縮こまる。

改めてサトリからの事情説明。ウツホが力を失ったことで、この世界へ提供していたエネルギーが止まってしまったのだそうだ。ウツホはその所為で捨てられると思い、家出をしたことをレイムが説明する。すると、地霊殿メンバーは「◎なんだから」と苦笑する。

その時だった。突如へらついたと思うと、轟音が鳴り響く。驚いたアキユウが外を見ると、地下焼却炉が急激に温度を下げ始めていた。

「◎かお前は「ウツホから事情を聞いた魔理沙は、そう言いつとウツホを小突いた。何をすると怒るウツホに、魔理沙は問いかける。

「じゃあお前は、サトリに心を讀む力がなきゃ、幻滅するの か？ お隣が何の力もない地獄猫なら、友達にならなかつたのかよ。」

それにすべたま首を振るウツホ。だろ？ と笑ってウツホの頭を乱暴にでると、「仲間ってのは、そういうもんだぜ」と言う。

そんな魔理沙にウツホが何か言おうとした瞬間だ。地響きが生じたと思うと、突如地面が陥没し、ヒルが崩れ落ち始めた。

異変が起こっている。それを感じ取ったウツホは一瞬躊躇するも、地底に向けて翼を広げた。

とんどん力を失う焼却炉に到着したレイムは、強力なエネルギーをぶつけて活性化させることを提案。【妹紅】に変身すると、炎を叩きつける。

しかし、並の火力では妖怪は倒せても地底地獄を復活させることは出来ない。とんどんかかと壁で頭を抱えていた、その時だ。魔理沙に連れられて、ウツホがやって来た。

見つめるサトリ。うっせへウツホ。「ごめんなさい……。」と謝る彼女を抱きしめると、サトリは「みんな心配してたのよ」と、優しい声で語る。

それを聞いて泣きじゃくるとウツホ。魔理沙は「絆するのは、能力や役に立つとかじゃねえ。例えどれだけ離れていても、相

手と心が繋がってるってことね」

それを聞いたレイムは、「魔理沙、あんた私の台詞盗ったわね？」と言う。その言葉を鼻で笑つと、魔理沙はスベルドライバーを取り出すと、宣言した。

「言っとくけどな！ 私はお前よりずっと前から、通りすがりの解決屋さ……。覚えといていいぜ！」

魔理沙変身。レイムはブッカーからカードを引き出すと、ウツホの能力が解放されていることを発見する。

「ウツホ。あんた今でも、一人で八咫鳥を探すつもり？」と問いかけるレイム。ウツホはそれに首を振ると、「いい。みんなに頼んで、一緒に探すわ」と返答する。

その答えに笑みを浮かべると、「じゃあ、反省したよ！子には、ご褒美をあげないとね」と言いつて「LSを発動。ウツホの側頭部を掴み思い切り押す。

勢いで側転するようつー回転するウツホ。その過程で三本の足と、黒い太陽が装着された。

「八咫鳥様！」と、戻った力に喜ぶウツホ。魔理沙とレイムは向かい合い頷くと、同時に「LASを発動させた。

「じゃあいくわよー」
陰陽鬼神玉、マスタースパーク、そしてウツホのニュークリアフュージョン。三人の力を合わせると、地下焼却炉に再び炎が灯った。

異変解決後、お礼をしたいという地霊殿メンバーの申し出を、魔理沙は「シーフが歓迎されるなんて気味悪いぜ」と言いつて断る。そして、今度来た時は八咫鳥の力を頂くとウツホに告げると、帯にまたがり飛び去った。

「何だか今回の魔理沙さんは、いい人でしたね」
「どこが……。ただの泥棒魔女よ」

そんなやり取りをする二人の後ろで、「いつの間にかエンディングに入ってた……。」と凹むサナエの姿があった。

全ての世界を回り終え、「これで異変は解決したってことですよね！ 万歳！ お祝いしましょー！」とはしゃぐサナエは、橙やウリンと準備を始める。そのテンションに、レイムは苦笑する。

だが、次のスクリーンが下りてくると、すべて表情は強ばってしまった。

映し出されたのは、異変に包まれ倒壊した、自分の世界。しかし、その色はモノクロになっていく。

「私たちの世界……なの？」

そして、次の物語。【旧作の世界】> ……